

企業名： サニックス

レポート名： 統合報告書 2023

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

私は、サニックスが目指している将来の姿について理解できると感じる。

統合報告書より、サニックスは中期経営計画の主要課題について、以下のように位置づけている。

【住環境領域】 快適な住環境を次世代に繋ぐのが当たり前の社会

【エネルギー領域】 環境負荷の低いエネルギーが当たり前の社会

【資源循環領域】 捨てないのが当たり前の社会

まず住環境領域について、HS（ホーム・サニテーション）事業では、日本の住宅の寿命（取り壊される住宅の築後平均年数）が40年足らずと欧米に比べてかなり短命であるという観点から、被害に遭ってから対策するのではなく、予防的見地による住宅メンテナンスを目指している。また、ES（エスタブリッシュメント・サニテーション）事業では、人々が集い、働き、暮らす空間の衛生管理や設備維持保全を通して、予防医学（未然に防ぐという思想）の見地からトータルサニテーションを推進している。これに関して私は、どちらの事業に関しても長期的な目線を持った対策を行うことで建物の寿命を伸ばすことが可能になり、廃棄物や資源の消費という観点でも地球環境に良い影響を与えることができると感じたため、よく理解できる。

次にエネルギー領域について、SE（ソーラー・エンジニアリング）事業では太陽光発電を身近なエネルギー源とすべく、分散型太陽光発電による再生可能エネルギーの普及拡大を目標としている。また太陽光発電に必須となる蓄電池の販売にも注力している。EB（エネルギー・ビジネス）事業では脱炭素社会の実現に向けて、新電力事業（電力小売）を中心とした多様な電力のニーズに応えることを目標としている。これに関して私は、太陽光発電を中心とした企業・住宅への電力の販売や、自社での電気の供給を通して環境負荷の低いエネルギー社会を目指すことができると感じたため、よく理解できる。

最後に資源循環領域について、ERD（エンバイロメンタル・リソースズ・ディベロップメント）事業については、地球規模で環境保護が求められる今、産業廃棄物の適正処理・リサイクルを通して地球環境と産業発展の調和を目指している。これに関して私は、廃プラスチックの燃料カリサイクルや、食品工場等から排出される有機廃液の浄化などを通して次世代の地球環境を考慮し循環型の社会を構築することが可能であると思うので、よく理解できる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

私は、サニックスの現在の競争優位性について理解できると感じる。

サニックスは現在、前述の三種類の事業を全て一社で行なっている。「次世代へ快適な環境を」という企業理念を基とし、関連するセグメント同士が強みを活かし協働しながら、様々な事業を行なっている。現在、持続可能な社会づくりという観点は日本にとどまらず世界の共通認識となっており、企業や一般家庭のSDGsへの関心も高まっている。また同業他社と比較すると、サニックスは地域に根ざした拠点網、顧客・社会のニーズに応える提案力・課題解決力、多様なノウハウ・専門知識などを源として競争力を生み出している。この状況において、持続的な環境づくりに多方面から取り組むサニックスは、競争優位性を持っていると理解することができる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

私は、サニックスの競争優位性に持続可能性があるかについて、理解できると感じる。

前述の通り、持続可能な環境づくりという観点は今後社会の中でさらに重要性を増していくものだと考えられる。国連は2030年までにSDGsの目標を設定しており、今後も重要な指標であることは確実であると考えられる。サニックスとしては、2021年度においてエネルギー価格の急激な高騰を予見することができず、新電力事業において大幅な損失を出すこととなった。しかし、それを受けて既存事業の拡大やアライアンス強化などの事項を推進させており、中長期的な目線で見れば成果を残していると言える。したがって、サニックスの持つ競争優位性には持続性があり、今後も事業を推進させることができると理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私は、サニックスで自身の人的資本の価値向上を達成できると思う。

サニックスグループは「仕事が教育で教育が経営である」を経営理念としており、経営戦略の中でも特に「人づくり」を重点課題の一つとして位置付けている。サニックスは創業以来「仕事に対する使命感や意欲、豊富な専門知識が不可欠」という考えのもと社員教育を行なっている。これは、提供するサービスが、衛生管理や廃棄物リサイクル、エネルギーなど目に見えないものであるという点から、従事する従業員の質がサービスの質に直結するという考えに基づくものである。またサニックスグループは教育専門の部署（人財開発部）および自社の研修センターを設け、「お客様にご満足のいくサービスを提供し、次世代の快適な環境づくりに貢献できる人財の育成」に努めている。研修センターに関してはサニックス総合研修センターを福岡県宗像市に有しているほか、新入社員向けの導入研修として理念・ビジョンの浸透や社会人としての基礎力を学び、また経営者としての視野を広げるための管理者研修、リーダークラスを対象としたマネジメント知識を学ぶ研修も実施している。

この研修サービスを通して、私はまずサービスの提供に関する専門的な知識を身につけることができるという点でスキルを得ることができると思う。また特に住宅のメンテナンス

や企業・一般家庭に対する電気事業においては、お客様を相手にした仕事の主であるため、人と接することを通して自身のスキルを向上させることができると感じる。また豊富な研修を通して様々な方向から自分の技術を向上させることができると思うため、私はサニックスで人的資本の価値向上を達成できると感じる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

私はこの報告書について、まずさまざまな事業について図や絵を豊富に用いて説明していた点が良いと感じた。会社の統合報告書は会社関係者ではない人も見る可能性が高いと考えられる書類であるが、そのような人に対してもわかりやすい説明がなされていたのが良いと感じた。また、各事業について商品・サービスを説明し、各サービスについて目指すべき姿が記されているのが良いと感じた。

一方で、各事業について結果としての数値は多く示されていたものの、目標としての数値が記されている箇所が少なく、そこに関しては改善余地があると感じた。2023年度以降の目標が統合報告書作成時点で定まっていなかったことも関係しているかもしれないが、定量的な目標を定め統合報告書に記載することで目標が達成できたかどうかをより客観的に判断できるのではないかと感じた。